

都道府県 番号 27	学校名 大阪府立岬高等学校	課程 全日制	学科 普通科 総合学科	指定期間 26～28
---------------	------------------	-----------	-------------------	---------------

## 平成28年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

### 1 研究開発課題

高等学校に在籍する障がい等により特別な教育的支援を必要とする生徒の自立と社会参加を図るため、自立活動を取り入れた「特別の教育課程」の編成に関する研究と障がいのある生徒の得意分野を伸ばし、障がいによる生活上、学習上の困難を主体的に改善・克服する効果的な通級による指導法について研究開発を行う。

### 2 研究の概要

全日制普通科の教育課程に「自立活動」の領域を設定し、障がい等による学習上または生活上の困難のある生徒を対象として、個別の通級授業「サポート岬」の指導内容、指導方法、評価方法、及び指導形態についての研究開発を行う。また、教科・科目の内容を補充するための特別の指導として家庭総合の被服や調理の実習を伴う授業について、障がいの特性に配慮した補充授業の開発を行う。さらに、対象生徒の得意分野をさらに伸ばす教科指導について研究開発を行う。

### 3 研究の目的と仮説等

#### (1) 研究開始時の状況と研究の目的

視覚障がいのある生徒は網膜色素変性症による視力低下、視野狭窄、色覚、暗順応、明順応などの障がいがあり、板書や日常生活動作に困難がある。また、場の空気や機微を読んで発言・行動することが苦手である。

ICT機器の活用に強い興味・関心があったので、学習用ロボット教材を活用したプログラミングの習得をとおして、情報端末のアクセシビリティの設定を学習し、情報機器を日常的に扱えるようにする。プログラミングを構築する過程で試行錯誤を繰り返し、自分なりの答えを導き出すことで自己肯定感を高めるとともに、自ら構築したプログラムを他者にプレゼンテーションし、プログラムを更に改善していくという過程で、コミュニケーション力に課題のある対象生徒に対して、ソーシャルスキルトレーニングを行い、他者とのかかわりや状況に応じたコミュニケーションが取れるようにする。

また、視覚補助具や、視覚障がいのある人でも使い易く工夫された、ユニバーサルデザインの道具を使用することで、消極的であった日常生活動作にも積極的に取り組ませる。

#### (2) 研究仮説

自立活動「サポート岬2」において、平成27年度から本格的に導入する学習用ロボット教材やパソコン等を活用した学習により、コミュニケーション手段の選択と活用に課題のある生徒が、他者とのかかわりの基礎や場の雰囲気等を読み、状況に応じたコミュニケーションを行えるようになる。視覚補助具や、視覚障がいのある人でも使い易く工夫されたユニバーサルデザインの道具を使うことにより、不安や苦手意識を払拭し、興味関心を持って日常生活動作を積極的に行うようになる。これらのことを通して種々の障がいのある生徒へのより効果的な教育活動を展開し、従来以上の成果をあげることができる。

### (3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
情報科課題研究2単位にかえて自立活動「サポート岬2」2単位を設定し、通級による日常生活における情報機器の活用及び校外実習への経路の計画等により個々の能力・才能を伸ばす特別な指導を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がいのある講師と日常の困難の克服方法や困り感を共有する。さらに、コミュニケーションの向上を図る。</li> <li>・情報機器の活用によって、スケジュール管理を行ったりさまざまな視覚補助器具の使用体験を行う。</li> <li>・情報機器を活用して、校外の目的地までの経路検索を行い、実行して検討することを繰り返して、自己肯定感の向上につなげる。</li> <li>・グループワークを通して他者とコミュニケーションを取りながら作業を行う。</li> </ul>	日常生活の習得およびコミュニケーション能力の育成 情報機器の活用および最適な経路の検索：2単位 70時間

### (4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

#### ①基礎的環境整備

- ・授業のはじめに本時の学習内容や目標を明示し説明しておくことで、授業の焦点化を図る。
- ・ICT機器を活用し、学びの視覚化を図る。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、問題解決力や思考力・表現力を高め、授業の共有化を図る。

#### ②合理的配慮

- ・昨年度までは、配布プリントをB4サイズからA3サイズに拡大コピーしたものを使用していたが、今年は、他の生徒と同じ大きさで、拡大鏡を使用している。

- ・教室での座席は最前列中央付近に配置しているが、視野狭窄のために黒板の端から端までを同じ位置からは見ることができないため、板書のための座席の移動を許可している。また、黒版の文字を読みやすくするために単眼鏡を使用している。

#### (5) 研究成果の評価方法

対象生徒及び保護者へのアンケートによる評価  
個別の指導計画の目標に対する妥当性の検討

### 4 研究の経過等

#### (1) 教育課程の内容

1年次は自立活動を教育課程には位置づけず、家庭総合の内容を補充するための特別な指導として「サポート岬」を行う。また、自立活動として2年次に「サポート岬2」4単位、3年次に「サポート岬2」2単位を設ける。

#### (2) 全課程の修了認定の要件

提出物、作品、出席等を総合的に判定する。

#### (3) 研究の経過

	実施内容等	
第1年次	4月 対象生徒の決定 個別の教育支援計画作成、個別の教材開発、個別の教育内容実施 第1回高等学校における支援教育コーディネーター研修参加	
	5月 視覚支援学校見学・研修 第2回高等学校における支援教育コーディネーター研修参加	
	6月 第1回支援教育研修「障害のある子供の理解及び指導の実際」 巡回教育相談・視機能検査	
	7月 第2回支援教育研修「視覚障害のある子供の指導1」 第3回高等学校における支援教育コーディネーター研修参加	
	8月 主治医面談 府立高校における支援教育推進フォーラムにて発表	
	9月 同一事業研究校訪問・情報交換 第3回支援教育研修「視覚障害のある子供の指導2」	
	11月 「発達障害フォーラム2014」参加	
	12月 プログラミング習得のための教材活用校内講習会実施	

	<p>OSAKA スマホサミット参加  支援学校見学・研修  平成 26 年度 運営指導委員会開催  平成 26 年度 第 2 回徳島県発達障害教育研究会参加</p> <p>1 月 支援学校見学・研修  講演会「自閉症スペクトラム児（者）の就労を考える」参加  特別支援教育推進校視察  同一事業研究校訪問・情報交換</p> <p>2 月 第一年次の効果検証・評価</p>
第 2 年次	<p>4 月 個別の指導計画作成、個別の教材開発、個別の教育内容実施</p> <p>5 月 第 1 回校内支援教育推進協議会開催</p> <p>6 月 第 1 回支援教育研修「自立活動の内容と実際」</p> <p>7 月 巡回教育相談・視機能検査</p> <p>8 月 第 2 回支援教育研修「安心できる集団づくりわかる授業づくり」  府立高校における支援教育推進フォーラムにて発表  同一事業研究校訪問・情報交換</p> <p>10 月 日本 LD 学会発表大会にて発表  同一事業研究校訪問・情報交換  作業療法士を招いてのケース会議（第 1・2・3 回）</p> <p>11 月 「発達障害フォーラム 2014」参加  「TTAP 入門」ワークショップ参加</p> <p>12 月 視覚支援学校見学・研修  平成 27 年度 第 2 回徳島県発達障がい教育研究会参加  同一事業研究校訪問・情報交換</p> <p>1 月 同一事業研究校訪問・情報交換  第 2 回校内支援教育推進協議会開催  平成 27 年度 運営指導委員会開催</p> <p>2 月 同一事業研究校訪問・情報交換  平成27年度 研究協議会</p> <p>3 月 第3回支援教育研修  「通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」  「秩序あるくずれないクラスづくり、授業改革」  筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターより  講師を招いてのケース会議</p>
第 3 年次	<p>4 月 個別の指導計画作成、個別の教材開発、個別の教育内容実施</p> <p>5 月 第 1 回校内特別支援検討委員会開催</p> <p>6 月 第 2 回校内特別支援検討委員会開催</p> <p>7 月 主治医面談  同一事業研究校訪問・情報交換</p> <p>8 月 第 1 回支援教育研修「インクルーシブ教育システムについて  ～発達障がいに焦点をあてて～」  府立高校における支援教育推進フォーラムにて発表</p> <p>9 月 同一事業研究校訪問・情報交換</p>

	第3回校内特別支援検討委員会開催
11月	第4回校内特別支援検討委員会開催
12月	第2回支援教育研修「支援教育の理解とインクルーシブ教育の現状と実践」

#### (4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	・対象生徒本人および保護者からのアンケートや聞き取り（平成27年1月に実施） （・TTAP検査の試行実施）
第2年次	・対象生徒本人および保護者からのアンケートや聞き取り（平成27年7月と平成28年1月の2回実施） ・TTAP検査実施および評価。
第3年次	・対象生徒本人および保護者からのアンケートや聞き取り（平成28年6月と平成29年1月の2回実施）。

## 5 研究開発の成果

### (1) 実施による効果

#### 1 対象生徒への効果

- ・情報機器でスケジュール管理を行うことで、先々の予定を把握できるようになり落ち着いて考えられるようになった。また、予定を立てて行動できるようになった。
- ・さまざまな視覚補助器具を使用することで、状況に応じてどんな器具が自分に必要であるかわかるようになった。
- ・校外実習先への行き帰りにおいて、状況に応じたコミュニケーションが取れるようになった。

#### 2 教員への効果

- ・学校内では多くの教員がサポートをすることで、問題なく学校生活を送ることができていたが、学校外では、不測の事態への対応ができない事が多々あることを再認識した。そのため学内で多くの場面のシミュレーションが必要であることが分かった。

#### 3 保護者等への効果

(保護者)

学校の取り組みに対して理解協力を得られている。また、進路決定が近づくにつれて、障がいに対する理解・受容が高まった。

(他の生徒)

障がいのあることで特別扱いするのではなく、同窓生、級友として関係が構築されており、自然に援助ができています。また、車椅子バスケットやシッティングバレーの講演を聴くことで障がいのある人の存在を身近に感じることができている。

(その他(地域の理解等))

地域の中学校教員と特別支援教育についての合同研修をおこない、問題を共有することができた。個別の教育支援計画の活用とともに、切れ目のない支援の提供に向けた連携協力の体制作りが一步前進した。

## (2) 実施上の問題点と今後の課題

- ・コミュニケーション力を向上させるため、原学級のグループワークに参加したが、授業の流れが合わず、変則的な時間割になり混乱した。通級の担当者だけでなく、多くの教員の自立活動に対する共通理解が今まで以上に必要であった。
- ・多くの特別支援教育に関する研修を実施したが、本授業の取り組み内容についての情報発信がもっと必要だと感じた。